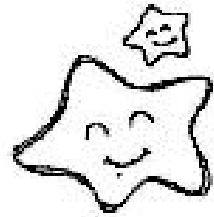


QSK にぬふあぶし

No.242

ね
子の方向の星



九州ブロック旅行記～がばいよかところ！佐賀大会

S・A・G・A さが～♪ S・A・G・A さが～♪

「佐賀県」と聞くと、15年くらい前に流行ったこの歌を思い出す人がどれだけいるのでしょうか。2月8日、沖福連事務局長を筆頭に、読谷村・嘉手納町・うるま市・支援てるしのから参加者5人の沖縄チームは博多駅からモワッと暖房の効きすぎた電車に1時間半ゆられて唐津市に到着しました。

今回の佐賀大会は2月9日・10日の2日間『1人じゃないよ、もやもんの福祉～つくろう仲間、力をあわせて』というタイトルで、基調講演、シンポジウム、家族SSTが盛り込まれていました。

タイトルにある「もやもん」とは、佐賀言葉の「共有する」という意味で、ACTplus『より添いとたい話の診療所』の谷口先生の講演や、当事者・支援者・家族を交えたシンポジウムでは、より多くの繋がりや居場所のあったほうが安心して地域で生活できるという佐賀の声を聞く良い機会になりました。

また、佐賀大学医学部の門司先生の基調講演では、こころの健康と身体への健康には密接な関係があり、特に「認知症・うつ病は肥満と大いに関係があり、生活習慣で改善できる」というお話が印象に残っています。皆さんのお腹、出っ張っていませんか???

2泊3日という短い滞在でしたが、ちらつく雪を見たり、強風の影響で電車の遅れを経験したり、呼子のイカの活造りを堪能したりと、研修以外も充実した時間を過ごせました。
(島田路沙)



プロ野球キャンプの感想

将平(てるしのワークセンター)

2月16日、『てるしのワークセンター』園芸班のみなで、名護市と北谷町へプロ野球キャンプの見学に行ってきました。

テレビと実際に間近で見るのとでは、だいぶ違うと思いました。

ピッチャーの球が速く感じました。テレビでは変化球の曲がり具合がわかりますが、近くで横から見ると真っ直ぐの球が想像以上に速く、変化球はなにを投げているのかわかりません。



バッターの打球もとても速く見えました。なかでも日本ハムのレアド選手の打球が、生で見たときにすごさが伝わりました。テレビでは打球の角度しか見えませんが、球場ではバットでボールを打つ音もすべてわかり、飛距離もどこまで飛んでいくのかわからないくらい大きな当たりで、ホームランかと思いました。

中日の練習では、ピッチャーがノックを受けているとき、投手はあんな練習もやるんだなと思いました。バッターの詰まった当たりがピッチャーの前に転がったり、一塁や三塁へのゴロもあって、ファーストへの送球の練習と思います。

球場内での打撃練習を見ても、テレビではなかなか聞こえない快音が耳に響き渡りました。一軍のレギュラー選手ならもっと大きな音が響いて、もっと飛距離もあったらと思うました。中日では一軍の選手が練習しているのは見られませんが、日本ハムではスター選手などが見られたので、とても嬉しかったです。

実際の球場に行くと、打球の音、守備位置、ヒット性の打球、打ち上がった打球の飛距離などが自分の目で確かめられます。今度はプロ野球の公式戦を生で見たいなりました。キャンプへ行って練習試合や練習しているところを見られてよかったです。とても面白かったです。



野球場の外野の芝生が緑色できれいでした。また、大谷翔平選手が野球場の隣のグラウンドでインタビューを受けているのを見ました。大谷選手の身長は高くて、かっこいいと思いました。(創)

野球キャンプは初めて観に行きましたが、思ったよりも人が多くてびっくりしました。なかには内地から来た人もいて、そういうファンの人たちのすごさや熱気が、選手の人たちの糧になっているんだなと感じました。

中日のキャンプでは選手の森野将彦さんが自転車に乗っているのを見かけました。こういう選手のちよつとした一面が見えたりするところに、キャンプならではの日常があって、野球に詳しくない私でも親近感が持てよかったです。(耕大)

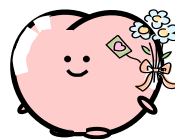


日本ハムの練習試合のとき、中田翔選手を見ることができて嬉しかった。(勲)

初めてプロ野球キャンプを見て、日本ハムも韓国のキアタイガースも、球が速くてよく打てるなと思いました。(直樹)

那覇市委託事業 精神障がい者家族相談員紹介事業

家族相談養成講習会および家族勉強会



今回は、誰もが日々感じているストレスに関して、どのように受け止め、どのように行動する等、生活の中で活かせるヒントや対処方法を学びます。

日時 2017年3月11日(土) 午後1時~午後4時

内容 ストレスコーピングについて 講師 久貝 興徳氏(沖縄大学)

会場: 那覇市地域生活支援センターなんくる 対象: 精神障がい者のご家族

参加費: 無料 定員: 16名 ※公共交通機関をご利用ください

《お申込先》 那覇市地域生活支援センターなんくる 電話 098-836-6971



夏莉郁子記念講演

テーマ

『家族・当事者・精神科医の3つの立場から経験して思うこと』
～人が回復するのに しめきりはありません～

目的：精神障がいへの理解を

地域社会で深めてもらうことを目的とします。

場所：読谷村文化センター鳳ホール

日時：4月22日(土) 午後3時～5時

主催：読谷村精神療養者家族会

後援：読谷村社協、沖福連

問合せ：支援センターみつ葉 098-958-7786 (担当：長浜)

入場
無料

講師：夏莉郁子(やきつべの径診療所)

北海道札幌市生まれ

浜松医科大学医学部卒業、共立菊川病院、神経科浜松病院を経て、
2000年 やきつべの径診療所開業

◎編集後記◎

2月18日の午後、荒れた風の運んできたPM2.5が、いつもより空をどんよりとかすませていました。南部某所の港で釣り糸を垂らした瞬間、竿をつかんだ手に知らない感触が。私がおその日、生まれて初めて沖縄の海で釣った魚は、ダンダラトラギスという名前でした。その日の空を忘れません。(ま)

編集：公益社団法人

沖縄県精神保健福祉会連合会

会長 島田 正博

〒901-1104

沖縄県南風原町字宮平206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒810-0001 福岡市中央区天神1-16-1

毎日福岡会館7F

電話 092-753-9722 FAX092-753-9723

定価：10円(会費に含まれる)